



たねやく農家

西之表地区  
タメアキ  
為昭さん (55)  
スギ杉



西之表市の杉為昭さんは、農家歴20年、サトウキビ7畝と親牛12頭を飼養しています。

杉さんは、集落営農組合「百笑一喜」の組合長を務め、種子島さび・甘藷振興会連絡協議会や西之表市さび・甘藷振興会の会長も務めており、地域の農業振興に大きく貢献している中核農家です。

サトウキビ生産面積も年々拡大し、来年度からは20畝を視野に入れ農業生産の拡大に力を入れています。

『耕畜連携』でコスト削減

農家同士の連携にも発展

杉さんは、35歳の時に就農。

父親の農業を継ぎ、サトウキビ収穫後の廃棄物を牛の粗飼料として活用し牛糞はサトウキビ畑の堆肥に活用する循環型農業を続けています。「父親から『耕畜連携』が大事だと言われていた。廃棄物を再利用することでコスト削減になる」と話します。

循環型農業のため、杉さんはサトウキビのトップ落としていただわっています。「精脱も普及しているが、サトウキビの粗飼料を必要とする畜産農家が沢山いる。畜産農家からは堆肥をもらい地域の農家同士で連携するために『トップ落としを続けていきたい』と話しました。」

集落営農組合の設立

若者にも仕事を提供

『地域の農業に貢献する』その心に誓う杉さんは、3年前に集落営農組合「百笑一喜」を設立。「作業受託をメインに取り組み高齢農家を支援することで、地域農業の衰退に歯止めをかけたい」と杉さんが進める循環型農業もマッチしており、農家同士の連携も高まりました。また、組合の仕事にはインターン者が多く参加しています。

杉さんは「サーファーが多く、時間に縛られず仕事ができる。サトウキビの収穫にも興味を持っており、組合の仕事が働き口になっていく」と話しました。

地域の農業を衰退させない  
未来へ繋げる地域貢献

杉さんの今後の目標は、地域の農業振興へ更なる貢献をすること。

「耕作放棄地や遊休農地を増やさない、循環型農業で農地を守っていく活動を続けていきたい。また、農業で生計を立てることができるよう若手の育成にも取り組んでみたいし大型化する農家に支援もしていきたい」と意気込みました。

